

RIETI BBL Webinar

「IMF世界経済見通し」コメント

2024年5月16日

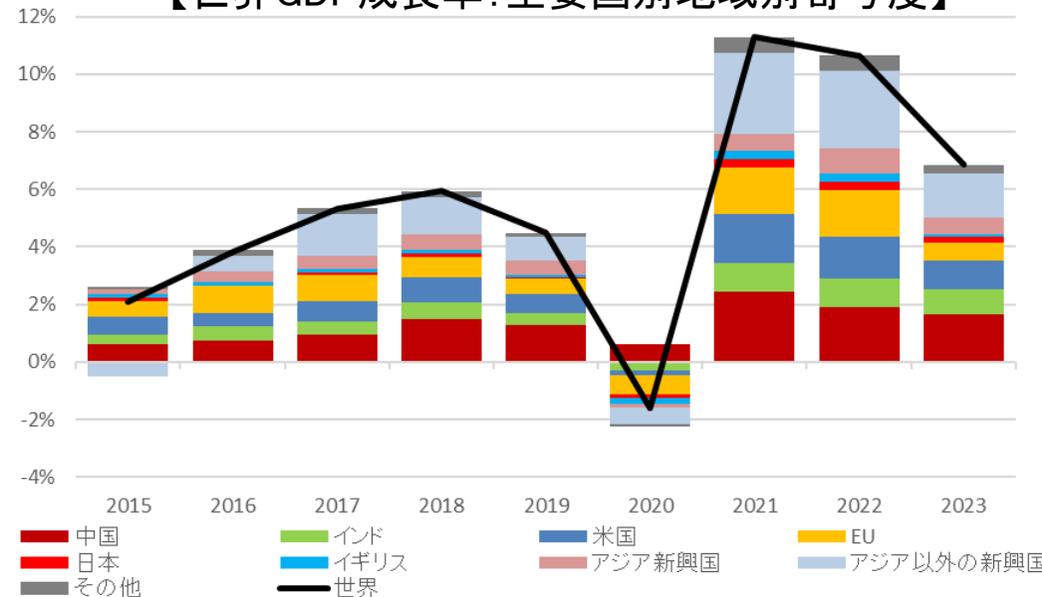
RIETIコンサルティングフェロー 新潟県立大学教授
中島厚志

(IMF経済見通し)

- ・世界経済は、デスインフレ下において想定以上の堅調な推移
- ・2023年の世界経済の成長率は3.2%と予測され、2024年と2025年も同程度の成長率で推移すると予測
- ・世界経済の見通しに対するリスクは、現在、概ね均衡している
- ・下振れリスクは、一次産品価格の高騰、根強いインフレによる金融ストレス、中国の景気回復停滞、過大な財政調整、政府への不信、改革機運の低下、地政学リスクによる経済分断
- ・上振れリスクは、選挙前の短期的財政拡張、想定外供給増、AIによる生産性向上、構造改革の機運の高まり

- 世界経済は、けん引役が乏しい中、中間層拡大による消費増や投資増が寄与したインドが高成長
 - ・購買力平価で測った23年の名目ドルベース成長寄与度では、世界経済(+6.8%)のうち中国(+1.7%)、インド(+0.9%)、米国(+1.0%)
- アップダウンはありつつも、世界的に物価は来年にかけて落ち着かない可能性
 - ・現在のWTI原油価格(80.7ドル/バレル、24/5/13)が今後持続すると仮定すると、価格は24年7月にかけて、また11月以降25年3月にかけて前年比増

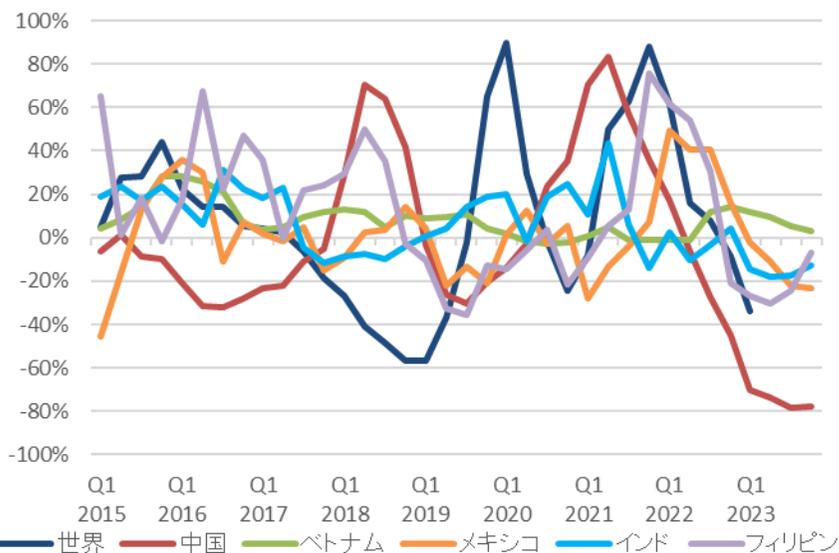
【世界GDP成長率：主要国別地域別寄与度】



(注)世界経済成長率および各国・地域とも購買力平価名目ドルベース。アジア新興国は除く中国、インド(出所)IMF "World Economic Outlook"より作成

- 22年以降世界の直接投資は大きく減速しており、とりわけ中国の落ち込みが大。世界経済の分断が進んでおり、財のみならず資本やサービス、人的交流でもグローバル化が滞る懸念が増大
 - ・ 米中対立、ロシアのウクライナ侵攻、地政学リスクの高まりなどで、財(モノ)のみならず直接投資(資本)、技術・人的交流などで分断とデリスキングが進展
 - ・ 世界経済のレジームは、戦後のブレトン・ウッズ体制からグローバル化を経て経済安全保障を重視する新しい経済秩序が形成される局面を迎えているように見える

【主要国：対内直接投資増減率の推移】



(注)前年同期比

(出所)Oxford Economics

変化する世界経済のレジーム

ブレトン・ウッズ体制
(1945～1971)

自由貿易発展

ブレトン・ウッズ体制崩壊後
米中貿易摩擦まで
(1971～2016)

東西冷戦終結、情報通信技術進歩などによりグローバル化進展

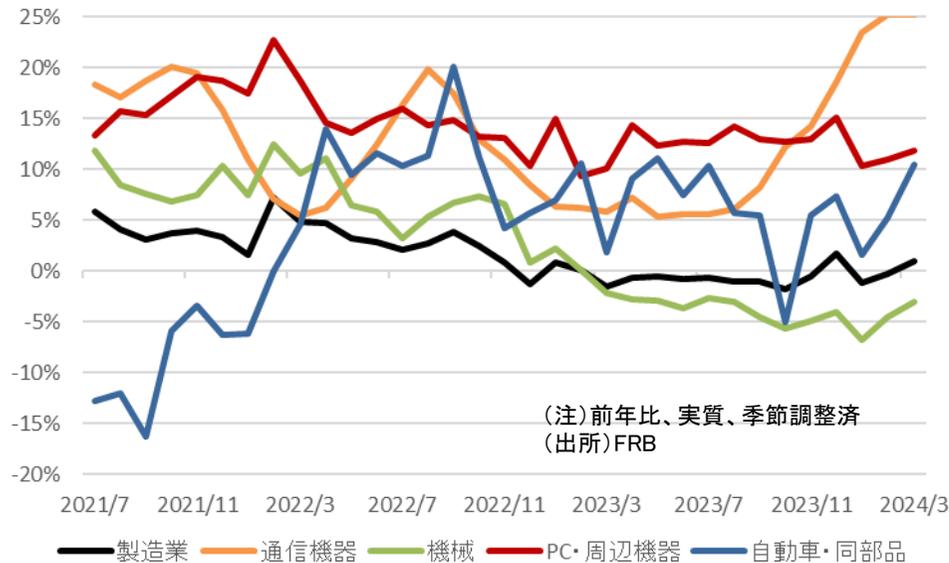
米中貿易摩擦以降
(2017～)

新たな経済秩序の下で人、モノ、技術全般にわたって分断とデリスキングが進展

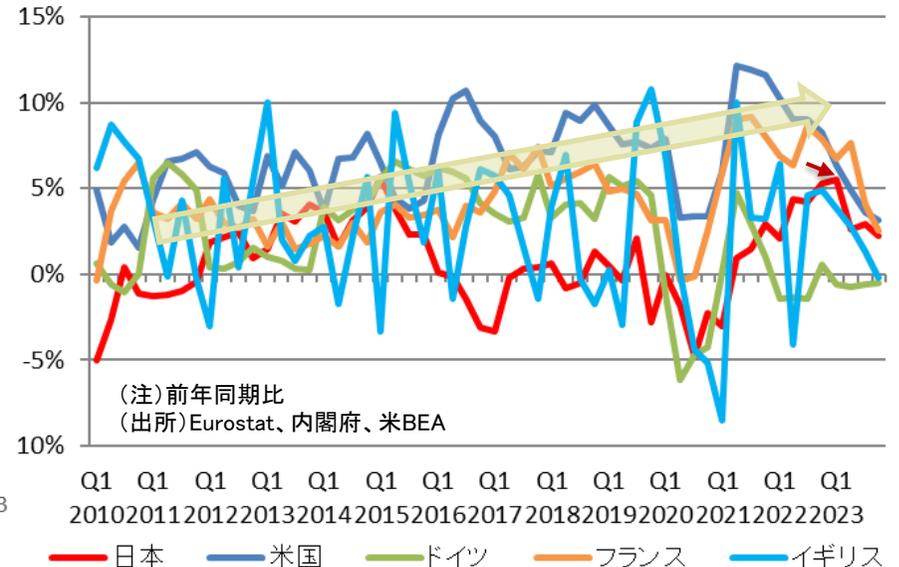
○ 一方、生成AIなどに主導される新たな技術革新の流れも強まる。世界経済が回復したときに一気に産業革命が本格到来する可能性も

- ・ 米国の工業生産で大きく増加しているのは通信機器、PC・周辺機器などIT・生成AI関連。一方、減少しているのが機械。IT隆盛と機械産業の伸び低下は21年半ば以降顕著となっており、ChatGPT登場(22/11)などと平仄を合わせて進展
- ・ 生成AIの活用が進展する背景には2012-13年頃からの欧米中心に知財投資が盛り上がっていることがあり、Deep learningで注目を浴びたAIが並列処理と言語処理機能の進歩で生成AIに進んだ歴史。当時第四次産業革命といわれた動きは着実に進展

【米国: 工業生産内訳増減率の推移】



【主要国: 知財投資増減率の推移】



【質問事項】

1. IMFは世界経済におけるリスクは現状概ね均衡しているとするが、上振れ・下振れ可能性の幅はかなり大きい。その分、今後について大きな成長変動リスクを抱えていると言えるのか、ご教示いただきたい。
2. 人、モノ、技術、資本全般にわたる分断やデリスキングが進展しつつあるが、戦前のブロック経済圏のような動きになるのは好ましくない。IMFは、分断が進む状況に対してどのような見方をしているのか、教えていただきたい。
3. 現在、ドル高が続いており、とりわけ円安が進展している。IMFは購買力平価でみて90円程度が適正なドル円相場と計算しているが、過度ともいえる円安は日本経済が課題を抱えている反映でもある。日本は今後どう経済を立て直す必要があるのか、ご教示いただきたい。